

JA全厚連情報



J A熊本厚生連 骨粗鬆症検査の無料体験を実施

目 次

- 財務会計の応用について研修
厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第1クール）をWEB開催 1
- CVP分析の基礎と設備投資意思決定について研修
厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第3クール）をWEB開催 2
- JA全厚連・元会長・加倉井氏などが受章
令和6年秋の叙勲・褒章 3
- 個人防護具回転備蓄事業性能検査への協力について 4
- 農民の健康を創る会 幹事会（令和6年11月11日開催） 6

・通信員だより

- 医療安全研修「防犯教室」を開催（かづの厚生病院） 11
- 「おらほの会 第1回研修会」～未来への礎を築く確かな一步を刻む～（北秋田市民病院） 12
- 白河厚生総合病院附属高等看護学院 継灯式（白河厚生総合病院附属高等看護学院） 13
- JAグループ茨城 チーム対抗リレーマラソン参加（JA茨城県厚生連） 14
- 第21回相模原協同病院健康まつり（相模原協同病院） 15
- 令和6年度 災害訓練を実施（伊勢原協同病院） 16
- ほほえみの丘が優良介護サービス事業所「かながわ認証」取得（介護老人保健施設ほほえみの丘） 17
- 第37回厚生連医療を考えるシンポジウムを開催しました（JA長野厚生連） 18
- 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター再編成建設工事 本館新築工事（第2期）中間引取り
（鹿教湯三才山リハビリテーションセンター） 20
- 令和6年度 医療安全管理担当者研修会を開催しました（JA長野厚生連） 22
- JA関連医療機関への「救急・リハビリ医療にかかる助成」目録贈呈式（JA長野厚生連） 23
- 救急・リハビリ医療機器購入費用助成 検診車等購入費用助成目録贈呈（JA岐阜厚生連） 25
- 清水厚生病院 市民講演会（清水厚生病院） 26
- 骨粗鬆症検査の無料体験を実施（JA熊本厚生連） 27



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
(事業運営支援グループ)
<https://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 歸山 好尚



JA厚生連

財務会計の応用について研修

厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第1クール）をWEB開催

本会は10月24日、25日の両日、厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第1クール）をWEBで開催し、11厚生連から30名が参加した。

厚生連経営管理職層育成研修会は、基礎編（全3クール）と応用編（全2クール）に階層化して開催しており、応用編では、基礎編の受講を終えた方が財務会計と管理会計の応用レベルの知識の習得を図る。

講師について、初日は有限責任監査法人トーマツP SHC東日本マネジャーの藤春氏とシニアスタッフの木村氏、2日目はデロイトトーマツリスクアドバイザリー合同会社マネジャーの古株氏と、同・マネジャーの赤宗氏が担当した。

研修会は、講義・演習・グループディスカッションで構成しており、第1クールでは、財務会計の応用をテーマに、①財務分析の前提と内部統制、②病院特有の財務分析、③倒産事例から見る財務諸表、④収益分析の応用演習、について研修を行った。

初日は、基礎編の復習から財務分析と内部統制を中心に、財務諸表を作成・利用し、病院を取り巻く環境変化に敏感になることで、何が正常で何が異常かを検知できるようになることや、財務分析の前提となる決算書が適正に作成されるには内部統制が不可欠であることを学んだ。

2日目は、倒産事例から見る財務諸表の講義の後、実例に基づく病院のケーススタディをグループに分かれて行い、SWOT分析ワークシートを使用して各グループでディスカッションを行った。

参加者からは、「収益構造の応用演習を掘り下げて受講したい」「実例に基づく病院のケーススタディが、SWOT分析の具体的な活用事例として大変参考になりました」等の感想が寄せられた。

次回（応用編第2クール）は、管理会計の応用をテーマに、12月12日、13日の開催を予定している。

内部統制の不備はどのあたりにあったでしょうか、また財務諸表への影響はあるでしょうか

窓口業務における内部統制の不備事例

医事業務委託会社社員が、日々の窓口で受領した外来診療費から現金を横領していたことが発覚、業務上横領で逮捕されるとともに、委託会社にも損害賠償請求を行っている。

約6年間で病院窓口で外来診療費自己負担について2万件約2億円を差取。

窓口が1人となることも多かった。病院は、委託会社を変更したものの、本人も経理、委託職員はそのまま同じ人物が同じ業務を行った。現金と集収着替えを抜き取り、病院側の確認残高を隠していた。合わせて日計表作成経路に医事システムの入金データを意図的に削除していた。

親族の経営する事業が破産し、家族の医療費等で生活が困難。高利貸からの借入もありその返済のために苦戦した。

発覚の経緯

新年度より、担当業務の異動を命ぜられたことで退職。翌月の外來固定額が前月比1.5倍となっていることを不審に思い調査開始、判明

約6年間にわたり不正に気付かなかった！

研修のようす

CVP分析の基礎と設備投資意思決定について研修 厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第3クール）をWEB開催

本会は11月14日、15日の両日、厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第3クール）をWEBで開催し、15厚生連から58名が参加した。

研修会は、講義・演習・グループディスカッションで構成しており、第3クールでは、CVP分析の基礎と設備投資意思決定をテーマに、①財務会計と管理会計の違い、②CVP分析の基礎、③設備投資意思決定の基礎、④CVP分析の基礎演習、及び⑤設備投資意思決定の基礎演習について研修を行った。

初日の講師は、有限責任監査法人トーマツPSHC東日本 マネジャーの佐々木氏と同・シニアスタッフの吉村氏が担当した。講義内容としては、財務会計は外部報告のための会計であるのに対し、管理会計は経営管理のための会計であり、過去・現在のデータを使って経営の意思決定に生かすものであるということを学習した。また、安全性分析、収益性分析、成長性分析、生産性分析といった財務分析および事業計画策定の基礎について学習した。

2日目の講師は、有限責任監査法人トーマツPSHC東日本シニアスタッフの木村氏と同シニアスタッフの吉村氏が担当した。講義内容としては、1日目の復習の後、グループに分かれてCVP分析の演習や設備投資意思決定の演習を行い、その後、各グループから報告を行った。

参加者からは、「正味現在価値法の概念が難しかったので、もう一度よく考えてみます」、「昨日理解できなかった部分が、演習で理解できました」等の感想が寄せられた。

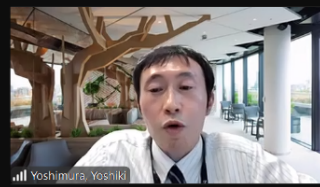
設備投資意思決定に使用する代表的な手法のうち、回収期間法と正味現在価値法について学んでいきます

設備投資意思決定に使用する主な手法（1/5）～総論～

本日の研修の対象

設備投資意思決定の代表的な手法	
回収期間法	回収期間法とは、投資金額を当該設備投資によって新たに発生すると見込まれる利益によって回収するのに要する期間（回収期間）の長短によって意思決定を行う方法です。早期の資金回収を目的として多くの日本企業が利用する手法です。
投資利益率法	投資利益率法とは、投資利益率の大小によって意思決定を行う方法です。投資利益率は以下の算定式で求めます。 投資利益率（％）＝（平均期間利益（全体利益を平均した1年分））÷投資額
正味現在価値法	正味現在価値法とは、各期のキャッシュフローを資本コストで割り引いて計算される現在価値合計から投資額を差し引いて計算した正味現在価値（Net Present Value：NPV）によって意思決定を行う方法です。
内部利益率法	内部利益率法とは、各期のキャッシュフローの現在価値合計と投資額が等しくなる内部利益率によって意思決定を行う方法です。内部利益率は、正味現在価値をゼロにする割引率です。

14



研修のようす

JA全厚連・元会長・加倉井氏などが受章

令和6年秋の叙勲・褒章

内閣府は11月3日、令和6年秋の叙勲・褒章受章者を発表した。

JA厚生連関係者で受章された方は以下のとおり。

賞 賜	主 要 経 歴	氏 名
旭日中綬章	元 全国厚生農業協同組合連合会 経営管理委員会会長	かぐら い とよくに 加倉井 豊邦
瑞宝中綬章	元 愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院長	うら た しろう 浦田 士郎



個人防護具回転備蓄事業性能検査への協力について

国の個人防護具（PPE）の備蓄は、輸入途絶や需給逼迫の再発生に備え、医療従事者・国民の生命健康を守るため、医療機関、メーカー、卸業者といった全ての関係者や国民にとっての公的基盤として、今後も必要である。国として継続的に備蓄を確保するため、厚生労働省において新たな調達を行っていくとともに、備蓄の入替えとして売却放出を実施している。

医療機関では、通常、製品サンプルを用いた臨床試用で使用感を評価した上で個人防護具を購入しているが、国備蓄品の売却入札・公募売却ではサンプル提供出来ないことが課題となっている。

そこで厚生労働省では、備蓄品を国が調達する段階で「性能検査」を実施し使用感を評価する。売却時には性能検査結果を配布し、購入検討の参考情報としてもらうことで、売却促進を図ることを目的としている。

今回、この性能検査の事前調査について、厚生労働省からJA厚生連グループに対して依頼があったことから、各厚生連本部の看護部長等で組織する看護問題検討会で協議いただいた結果、JA愛知厚生連、JA茨城県厚生連及びJA長野厚生連に協力いただいた。協力医療機関は下表のとおりである。

厚生労働省としては、事前調査の結果等を踏まえ、性能検査を実施するとしていることから、この検査についても、医療行政への協力として多数の厚生連（病院）に参加（実施）いただく予定としている。

事前調査協力医療機関名
J A 愛知厚生連 豊田厚生病院 感染制御部感染制御室感染制御課
土浦協同病院 感染管理室
南長野医療センター篠ノ井総合病院 感染対策室

全国厚生連看護問題検討会 名簿

No	県連名	所属	職名	氏名
1	北海道厚生連	遠軽厚生病院	看護部長	小林 順子
2	北海道厚生連	(事務局) 人事部看護管理	課長	岩上 知映
3	茨城県厚生連	看護統轄管理部	看護統轄管理部長	関根 洋子
4	長野県厚生連	人事部	部長	望月 環
5	新潟県厚生連	人事部 看護師確保対策室	室長	土田 八重子
6	愛知県厚生連	医療事業局 看護統括部	看護統括部長	牧田 久仁子
7	静岡県厚生連	管理部 人事課	看護師確保・教育 担当看護部長	疋田 百合香
8	三重県厚生連	管理部	看護責任者	太田 真理子
9	徳島県厚生連		参与	三木 真澄
10	山口県厚生連	長門総合病院	看護部長	花島 まり
11	広島県厚生連	人事部 看護管理課	看護管理担当部長	久保 知子

令和6年度**農民の健康を創る会 幹事会（令和6年11月11日開催）**

自由民主党の議員連盟「農民の健康を創る会」（森山裕会長）は、厚生連を含む公的三団体（日本赤十字社及び済生会）の現状及び要望を聴取・協議するため、11月11日に自民党本部707号室において幹事会が開催され、12名の役員（別添参照）が出席された。

JAグループからはJA全厚連の長谷川会長及び歸山理事長が、日本赤十字社の千田副本部長、済生会の松原理事が出席した。

幹事会は、冒頭の野村会長代理の挨拶で開始された。

議事等は以下のとおり。



野村先生

1 JA全厚連の長谷川会長から農民の健康を創る会幹事会開催に対する謝意を伝えるとともに、地方創生において地域医療の充実は重要な役割を果たすことから、地域医療維持等に貢献する公的三団体について理解と協力を求めた。

2 続いてJA全厚連の歸山理事長が、「令和5年度の厚生連決算として、医薬収益は増加したが、医薬品や診療材料等の材料費を主に医業費用がそれを上回る増収減益の実態」、「令和6年度上半期の経営状況」、「公的三団体の感染症対策のための医療体制の確保」について説明を行った。また、日本赤十字社の千田副本部長及び済生会の松原理事が、それぞれの経営状況について説明を行うとともに、公的病院三団体代表者の連名の要望書（①「医療従事者の処遇改善への対応」、②「物価高騰への対応」、③「公的三団体への支援」）について説明を行った。

その後、関連する事項について、厚生労働省及び農林水産省に対応状況等の説明を求めた。

出席者名簿

役職	氏名	衆・参	選挙区
会長代理	野村哲郎	参	鹿児島
幹事長	宮下一郎	衆	長野5
幹事長代理	永岡桂子	〃	比例・北関東
事務局次長	国光あやの	〃	比例・北関東
〃	星北斗	参	福島
〃	藤木真也	〃	比例区
幹事	武部新之	衆	北海道12
〃	中村裕之	〃	比例・北海道
〃	斎藤洋明	〃	比例・北陸信越
〃	上月良祐	参	茨城
〃	進藤金日子	〃	比例区
〃	山田俊男	〃	比例区



令和6年11月19日、自民党・森山裕幹事長に要望書を手交する

右から済生会・松原理事、日赤・渡部業務執行理事、

JA長野厚生連・神農会長（JA全厚連副会長）、JA全厚連・歸山理事長



令和6年11月6日、自民党・宮下一郎衆議院議員に要請を行う
左から済生会・松原理事、日赤・渡部業務執行理事、菅次長、J A全厚連



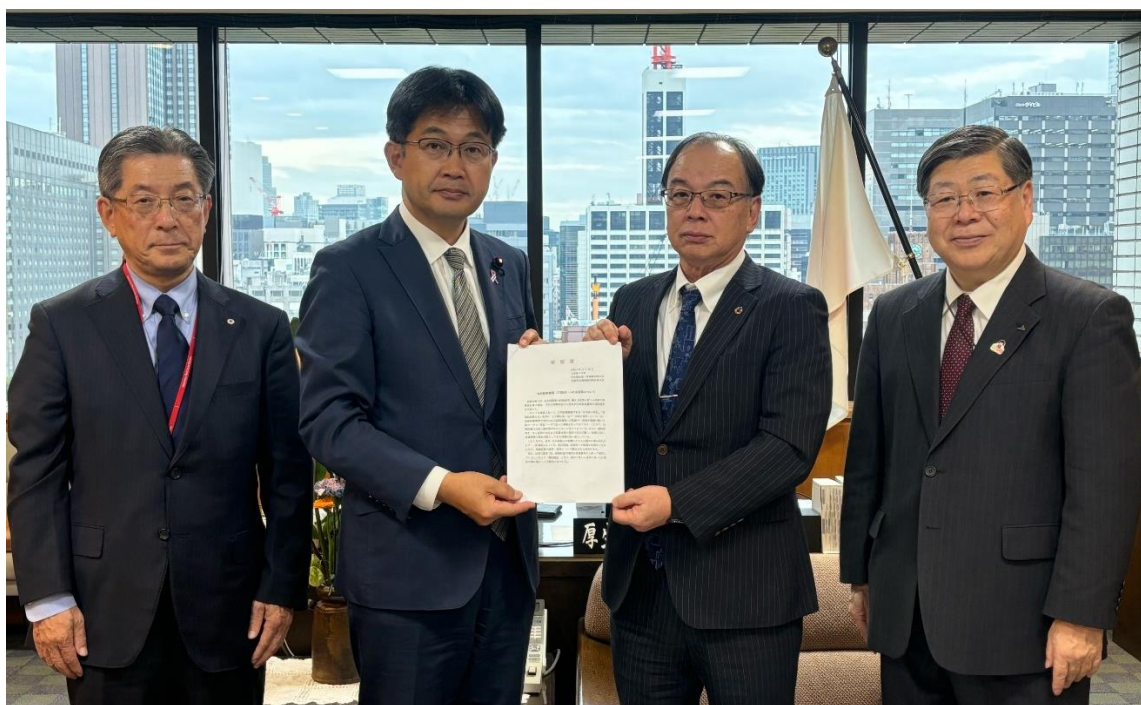
令和6年10月31日、自民党・上月良祐参議院議員に要請を行う
左から日赤・千田副本部長、済生会・松原理事、J A全厚連・歸山理事長



令和6年10月31日、自民党・斎藤洋明衆議院議員に要請を行う
JA新潟厚生連・伊藤会長（左）とJA全厚連・歸山理事長（右）



令和6年11月15日、自民党・深澤陽一衆議院議員に要請を行う
左から日赤・渡部業務執行理事、済生会・松原理事、JA全厚連・歸山理事長



令和6年11月26日、仁木博文衆議院議員に厚生労働副大臣室にて要請を行う
左から日赤・渡部業務執行理事、J A 徳島厚生連・松田会長、J A 全厚連・歸山理事長



医療安全研修「防犯教室」を開催

(JA秋田厚生連・かづの厚生病院)

昨今、病院立てこもり事件や特殊詐欺、闇バイトによる強盗致傷事件など、凶悪な事件が頻発しております。このような情勢を鑑み、かづの厚生病院(吉田雄樹病院長)では、医療安全研修として鹿角警察署生活安全課の警察官2名を講師にお招きし、職員に対して防犯教室を行いました。

始めに、ストーカー対策やSNSによる特殊詐欺対策など、プライベートでも役立つ防犯対策を学んだ後、実践として「さすまた」による院内の防犯対策を体験しました。

不審者が院内に侵入した場合、不審者に対してどのような距離感でフォーメーションを取ればよいのか、また、さすまたを不審者のどの位置に押しつければより動きを止められるのかなど、実際に職員がさすまたを使用し動きを確認しました。

最後に、「さすまたの使用目的としては不審者を捕まえるものではなく、あくまで警察官が現場に到着するまでの時間稼ぎのものであり、不審者の動きを止めることができない場合は、無理をせず自分の身を守る行動をしてほしい」とのアドバイスが講師の方よりありました。

もしもの事態への備えとして、今回の防犯教室はとても有意義なものとなり、今後も患者さんや職員の安全を守るために努力してまいります。



防犯教室の様子

(淡路明美通信員)

「おらほの会 第1回研修会」 ～未来への礎を築く確かな一步を刻む～

(JA秋田厚生連・北秋田市民病院)

北秋田市民病院(相澤俊朗病院長)では、地域の医療・介護・福祉に携わる約80名の専門職を招き、「おらほの会 第1回研修会」を開催しました。

この研修会は、少子高齢化が進む当地域で、各施設と顔の見える信頼関係を築き、皆が安心して暮らせる医療環境の充実を目指すことを目的に開催しました。

研修会では、院長による骨粗鬆症に関する講演や、参加者同士が日々の業務における課題や改善策を活発に意見交換し、互いの絆を深める貴重な機会となりました。

また、院長と長年連携してきた先生方を紹介するとともに、協力医療機関連携の運用フロー確立に向けた動きが大きく進展するなど、今後の地域医療の基盤作りの一助となりました。

最後は院長からの、「いつか地域の皆様から『おらほの病院があってよかった』と心から感じてもらえる日が来るよう、努力を惜しまない」との言葉で、研修会を締めくくりました。

今後も、さらなる連携強化を図り、地域医療の発展に向けた確かな基盤作りに努めてまいります。



研修会の様子

(淡路明美通信員)

白河厚生総合病院附属高等看護学院 継灯式

(JA福島厚生連・白河厚生総合病院附属高等看護学院)

JA福島厚生連白河厚生総合病院附属高等看護学院(前原和平学院長)は10月26日、同学院講堂で継灯式を行いました。

保護者や病院関係者、在校生らが見守るなか、第64回生(1年生)20名はナイチンゲール像から灯火を受け継ぎ、ナイチンゲール誓詞を唱えました。

前原学院長は「心の中に、温かく、静かで優しいろうそくの炎を灯して患者さんに接していただきたい。これからの二年半の学業生活で、平常心を失わない強い精神を育ててまいりましょう。」と挨拶を述べ、JA福島厚生連高久忠代表理事理事長、白河厚生総合病院大木進司院長、白河厚生総合病院鈴木文子看護部長が挨拶を述べました。臨地実習指導者代表、白河厚生総合病院看護師の長谷部華織さん、学生自治会代表の新井嵐之介さんが励ましの言葉を贈り、1年生代表鈴木萌加さんがお礼の言葉を述べました。

白河厚生総合病院看護部会の堀越一枝会長より1年生代表渡辺華怜さんに記念品が贈呈されました。

継灯式を終え、1年生は11月から始まる本格的な実習を前に看護師になる決意を新たにしました。



継灯式の様子

(大内崇通信員)

J Aグループ茨城 チーム対抗リレーマラソン参加

(J A茨城県厚生連)

爽やかな秋晴れの中、J Aグループ茨城 presents リレーマラソン チーム対抗4時間耐久ランが11月16日ケーズデンキスタジアム水戸にて開催され、茨城県厚生連からも土浦協同病院チーム、本所・病院連合チームの2チームが参加しました。

リレーマラソンとは、チームでタスキを繋いで走るマラソン大会で、走る距離、回数、順番も自由、上級者も未経験者と一緒に走ることができます。初開催となる今大会は企業エントリーや一般エントリーなど67チーム、約500人が出場し、上位入賞チームや参加者には茨城県産米や各種農産物が提供されたほか、茨城県産農畜産物に関するブースも多数出展され、来場者に茨城県の魅力を発信していました。

当会では運営補助のほか、看護師が救護班にも携わり、関係団体とともに大会を盛り上げました。

参加したスタッフは、マラソン初心者からフルマラソン経験者、ウルトラマラソン完走者までバラエティに富んだチーム編成で、最後は全員で手を繋いでゴール。「スポーツの秋」「食欲の秋」を皆全力で楽しみました。

今後もJ Aグループ茨城の一員として、地域と一体となった取り組みを継続し、皆さまに愛される組織作りを目指して参ります。



たすきを繋ぐシーン



手を繋いでゴールする厚生連職員

(先崎理恵通信員)

第21回相模原協同病院健康まつり

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（渋谷明隆病院長）では、11月3日第21回相模原協同病院健康まつりを開催しました。毎年恒例のイベントで、今年で21回目を迎えることができました。当日は晴天にも恵まれ、約3,000人もの方々にご来場いただき大盛況でした。

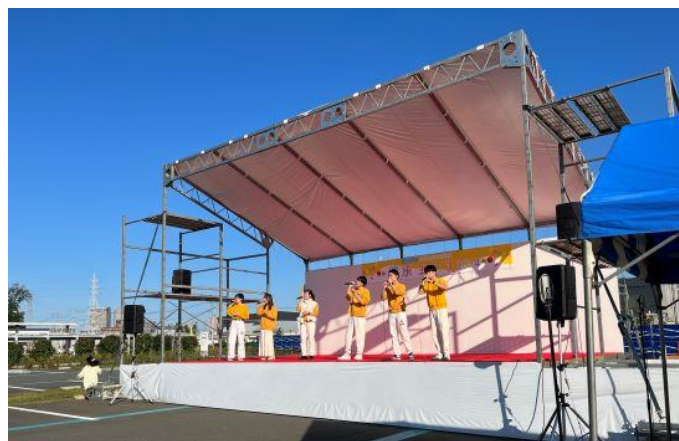
毎年恒例の職業体験やちびっ子ナース写真撮影、健康チェック、模擬店、キッチンカーなどに多くの人が集まり賑わっていました。また、今年はメディカルラボも同時開催となりました。

ステージでは、パリ五輪スケートボード女子ストリート金メダリストの吉沢恋選手によるトリック披露・トークセッションやお囃子、アカペラなども行われ盛り上がりしました。

当日ご参加ならびにご出演いただきました地域の皆さま、相原高校のみなさん、そして、出店にご協力いただいた多くの方々に心より厚く御礼申し上げます。



パリ五輪スケートボード女子ストリート金メダリスト 吉沢恋選手



アカペラステージ



職業体験の様子



集合写真

(増田佳一通信員)

令和6年度 災害訓練を実施

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

10月12日、伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）で災害訓練を実施しました。多職種から構成された防災委員会のメンバーを中心に、多くの職員が参加しました。

今回の訓練では震度6強の地震の発生と電子カルテの使用できない状況を想定し、訓練を行いました。災害対策本部の立ち上げと運用をはじめ、患者さんの重症度や緊急性に基づいて治療の優先順位を決定する「トリアージ」、患者さんの情報を素早く正確に記録する「クロノロジー」に重きをおき、災害発生時に職員がとるべき行動を確認しました。

さまざまな状態の患者さんが次々と運ばれてくる状況下で、限られた医療・人的資源をどう有効活用するか、各々が考えながら行動する訓練となりました。

今後も災害対策を強化し、災害時の医療機能の強化を図ってまいります。



災害対策本部



トリアージエリア

(増田佳一通信員)

ほほえみの丘が優良介護サービス事業所 「かながわ認証」取得

(JA神奈川県厚生連・介護老人保健施設ほほえみの丘)

介護老人保健施設ほほえみの丘(蒔田知美施設長)では、神奈川県独自の取り組みである、介護サービス事業所の第三者評価「かながわ認証」を取得した。

かながわ認証とは、県内の優良な介護事業所を神奈川県が認証する取り組みで、サービスの質や人材育成等について、一定水準を満たしている事業所として認証された。

本年度は老健施設では、県内12施設が認証され、ほほえみの丘が12施設を代表して黒岩神奈川県知事より証書が交付された。



認証書交付式の様子



認証書

(増田佳一通信員)

第37回厚生連医療を考えるシンポジウムを開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連と同労働組合は10月4日と22日、長野市のJA長野県ビルで「第37回厚生連医療を考えるシンポジウム」を開催しました。メインテーマは「ポスト2025年の病院運営の課題と展望について」とし、本会の各病院から医師、看護師ら多くの職員が参加しました。

このシンポジウムは、厳しい医療情勢の中で厚生連職員全員が気持ちをひとつにして、厚生連医療を守り発展させるため、昭和59年から労働組合と共催で開催しています。近年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止とじていましたが、5年ぶりにハイブリット形式での開催となりました。



シンポジウムの様子

第1部（10月4日）の基調講演では「2040年を見据えた医療介護提供体制と今後の病院機能について～持続可能な地域社会の実現に向けて～」と題し、急速に変化する人口動態や医療需要の変化など具体的なデータと事例を交え、それぞれの地域の医療提供体制の在り方について一般社団法人未来研究所臥龍 代表理事の香取照幸先生にご講演いただきました。



基調講演いただいた香取先生

続く第2部（10月22日）では、各病院の院長・労組代表者をシンポジストとして、メインテーマを基に今後の経営戦略についてパネルディスカッションを行い、基調講演を受けての具体的な課題や解決策について意見を交わしました。会場からも多くの質問が寄せられ活発な議論ができたことは、今後の厚生連医療の在り方について、共に考え理解を深める大変有意義な機会となりました。

今後とも本会は、JAグループの一員として、組合員・地域住民のいのちと生きがいのある暮らしを守り、健康で豊かな地域づくりに貢献してまいります。



会場からの質問時の様子

（山岸愛通信員）

鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 再編成建設工事 本館新築工事（第2期）中間引取り

（JA長野厚生連・鹿教湯三才山リハビリテーションセンター）

JA長野厚生連は10月11日、上田市で鹿教湯三才山リハビリテーションセンター再編成建設工事 本館新築工事（第2期）の完了を迎え、厚生連及び工事関係者の出席のもと、中間引取りを執り行いました。

このたび完成した本館（第2期）は、地下1階・地上3階建、延床面積約2,080.71㎡のRC造で、令和5年（2023年）10月に完成した本館（第1期）と接続してひとつの建物となりました。

1階には北側玄関及び義肢の作製等を行う義肢装具室の移設による機能の充実。2階にはMRIやCTをはじめとする放射線科の移設による診療機能の充実。3階には医局を移設し、診療機能の集約化による患者・職員の利便性の向上を計画しています。



引取り式の様子①

引取りのなかで洞代表理事理事長は、「鹿教湯病院はやるべきことが明確な病院であり、今後ますます重要な役割が求められる。それらの需要に応えるための施設設備として今回2期建物の引取りを迎えた。今後は、回復期・慢性期機能の充実に加え、難病をはじめとした特色ある医療機能をより一層発揮してもらいたい。」と述べられました。

第3期工事は、既存の中央診療棟・東病棟を解体し外構の整備を行ったのち、令和7年（2025年）7月に2021年から着手した再編成工事の総合竣工を予定しております。

今後も地域の皆様が安心して質の高い保健・医療・福祉を受けられるよう努めてまいります。



引取り式の様子②

（山岸愛通信員）

令和6年度 医療安全管理担当者研修会を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連は、11月5日に医療安全管理担当者研修会をオンラインで開催しました。この研修会は、医療安全管理担当者の知識向上や多角的な視点を持つことを目的として毎年開催しており、各事業所の医療安全管理担当者ほか、医師や看護師など様々な職種から260名を超える職員が参加しました。

講師に宮澤潤法律事務所の長野佑紀弁護士をお迎えし「病院・診療所における紛争予防・対応～医療事故に関する紛争を中心に～」と題してご講演を頂きました。

講演では、「医療事故と法的責任」、「医療紛争への対応」、「医療紛争の予防(説明、記録)」などについて実際に起きた医療事故等の裁判事例、検討事例も交えながら、お話し頂きました。

講演会后、参加者からは「実際の事例を元に説明してもらったのが分かりやすくて良かった」「記録や説明の大切さがより分かった研修でした」「紛争を予防するための方法が、事例を交えてお話しいただきわかりやすい内容でした」などの声が多く寄せられ、目的に則した実りある研修会となりました。



講演を行う長野先生



研修会の様子

(山岸愛通信員)

J A 関連医療機関への 「救急・リハビリ医療にかかる助成」 目録贈呈式

(J A 長野厚生連)

全国共済農業協同組合連合会による令和6年度(2024年度)JA関連医療機関への救急・リハビリ医療にかかる助成の目録贈呈式が11月18日、JA共済連長野県本部において執り行われました。

この助成事業は全国共済農業協同組合連合会により社会貢献活動の一環として2003年度から続けられており、交通事故被害者の救命や社会復帰支援を目的にJA関連医療機関の救急医療機器、リハビリ器具等の購入に対し財政支援を行うものです。

はじめに、米久保 隆 JA共済連長野県本部長から「当該事業は交通事故被害者の救命や社会復帰支援等を目的として厚生連病院の救急医療機器等の購入に対する助成であり、平成15年度(2003年度)から約22年間にわたり助成を行ってまいりました。今後、高齢化が進む地域において、厚生連病院が担う役割はさらに重要となることから、当該助成金を十分活用いただくなかで、地域医療への更なる貢献をお願いします。」と挨拶されました。



贈呈式の様子

また、洞和彦代表理事理事長は「長きにわたり厚生連の医療機器に対しご助成頂いておりますことに心より感謝申し上げます。当該医療機器は医療提供に必要不可欠であり、当会は引き続き、健康増進ならびに地域医療への貢献に努めてまいります。」

とお礼の言葉を述べました。

今年度は、浅間南麓こもろ医療センターが生体情報モニタ、北アルプス医療センターあづみ病院が血液ガス・電解質分析装置、長野松代総合病院が生化学自動分析装置と超音波画像診断装置の助成を受けました。



目録贈呈の様子(左から米久保本部長、洞代表理事理事長)

(山岸愛通信員)

救急・リハビリ医療機器購入費用助成 検診車等購入費用助成目録贈呈

(JA岐阜厚生連)

JA岐阜厚生連は、救急医療機器の整備並びに経鼻内視鏡検診車で使用する医療機器の整備にあたりJA共済連岐阜から購入費用の助成を受けることとなり、10月29日にJA会館において贈呈式が行われました。

JA共済連岐阜は、救急医療及びリハビリ医療の充実と交通事故被害者の救命や交通事故身障者の社会復帰の促進、農村地域を中心とする組合員・利用者の健康管理の支援を行うことを目的に、JA関連医療機関における医療機器等の購入に対する助成を行なっています。

今回の助成を受け、中濃厚生病院に整形外科用手術器械（手術支援ロボット）及び先端湾曲ビデオスコープを導入しました。

また、経鼻内視鏡検診車（岐阜・西濃医療センター西濃厚生病院配備）に上部消化管経鼻スコープ等を整備しました。

当機器の導入により農村地域における救急医療の充実に貢献し、組合員・利用者の疾病の早期発見・早期治療に寄与するものとして期待されています。



JA共済連岐阜運営委員会 志田会長(右)から
JA岐阜厚生連経営管理委員会 堀尾会長(左)への目録贈呈

(寺師史華通信員)

清水厚生病院 市民講演会

(JA静岡厚生連・清水厚生病院)

清水厚生病院（西村明人病院長）は10月19日、市民講演会を開催しました。この市民講演会は、病院のある静岡市清水区の地域医療を考えるきっかけにしたいと今年度初めて開催し、地域の方や医療関係者107名が参加しました。

「清水における地域医療―「自分らしく生きる」を支える地域づくり―」をテーマに清水厚生病院の成島道樹副院長、「市民の皆さんが知っておくとよい整形外科疾患」をテーマに北里大学医学部整形外科学の高相昌士教授が講演を行いました。



市民講演会の様子

(望月俊宏通信員)

骨粗鬆症検査の無料体験を実施

(JA熊本厚生連)

JA熊本厚生連は、11月9日・10日の2日間、熊本県農業公園（カントリーパーク）で開催された「2024くまもと農業フェア」に参加しました。本会では、来場者に検診を身近に感じてもらうため、乳がん触診モデルによる自己触診の指導や骨粗鬆症検査の無料体験ができる特設コーナーを設けました。

特設コーナーには多くの方が集まり、2日間で531の方が骨粗鬆症検査を体験されました。

体験された方からは、「簡単に検査を受けることができた。定期的に健康診断を受けることが大切と感じた。来年も実施して欲しい。」との声が聞かれました。

今後も健康管理活動を通じ、JA組合員・地域住民の暮らしと健康を守り、明るく豊かな地域づくりに貢献してまいります。



検診車両での骨粗鬆症検査の風景

(多久弘高通信員)